会報 JAISA ジャイサ

2026 春号 第86号



第22回自動認識総合展大阪

2026年2月19日（木）から20日（金）まで、
マイドームおおさかで第22回自動認識総合展大阪が開催されました。
2日間の来場者は1,817名、出展企業は31社、
併設のセミナーは7セッション15講座で417人が聴講しました。



JAISA 一般社団法人日本自動認識システム協会

会報 JAISA 春号 CONTENTS

第22回 自動認識総合展 大阪 P1

第22回自動認識総合展 大阪 自動認識セミナー P2

AUTO-IDトップランナーに聞く P3

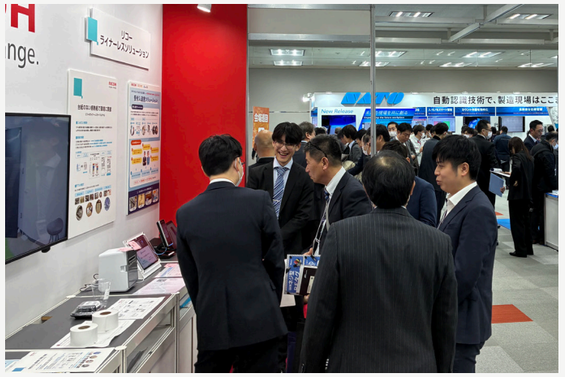
自動認識ユーザー現場見学会 P6

第28回 自動認識システム大賞 ご案内 P7

2026年度 自動認識技術者 資格認定講習・試験 ご案内 P8

2026年度 自動認識の基礎知識セミナー ご案内 P9

第28回 自動認識総合展 ご案内 P10



展示会場



自動認識セミナー会場

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO
第22回 自動認識総合展 大阪

A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID 未来をつなぐ AUTO-ID

大阪で2年振りに冬の自動認識総合展を開催

2026年2月19日（木）・20日（金）の両日、第22回自動認識総合展大阪がマイドームおおさかで開催、昨年の名古屋に続き、大阪では2年振りとなりました。
2日間の来場者は1,817名、出展企業は31社（共同出展、関係団体含む）。また併設のセミナーは7セッション15講座が行われ、聴講者は延べ417名でした。



（一社）日本自動認識システム協会
代表理事会長
柴谷 浩毅



経済産業省近畿経済産業局産業部
製造産業課長
小谷 純二 様

展示会は初日の開会式で幕を明け、JAISA会長柴谷浩毅は冒頭の挨拶で、『本展示会が最先端の自動認識技術やソリューションを展示する関西で唯一の自動認識専門展示会』であること。
『自動認識技術はDXの基盤技術の一つとして、デジタル化を促進し、その変革を支え、進化させる大きな可能性を持つ。特に近年はAIが正しく機能するための「目」の役割としてその重要性が高まっている』とし、『今後、RFIDのさらなる普及に加え、生体認証や画像認識がAI技術と融合し、スマートファクトリーやサプライチェーンの高度化に大きく貢献することを期待する』と述べました。

開会式では、来賓を代表して経済産業省製造産業課長小谷純二様から祝辞を頂戴し、テープカットが行われ、来賓の皆様は展示会場で出展各社を視察しました。



出展社とおもな出展製品

（株）RFIDアライアンス／エイリアンテクノロジー	エイリアンH9，H10インレイ、データマースFT40Xランドリータグ
アイニックス（株）	最新の業務用モバイル端末をはじめ、各種自動認識機器をご紹介いたします。
アクセンチュア（株）	現場業務を効率化し、OSや端末に左右されないアプリ開発を実現するツール
Atchip IoT（Shanghai）Co,.Ltd.／東機通商（株）	RFID読み取り機器、RFIDラベルなど
オカベマーキングシステム（株）／（株）ケーウェイズ	【人の目を超える、機械の認識力】を活用した業務効率化を提案致します。
GIGA-TMS.INC	RFID Pick to Light スマートシェルフ、RFID 文書管理システム
（株）サイレンスネット	金属・耐熱・耐溶剤対応タグとUHF帯リーダ・アンテナ各種製品の紹介
（株）サトー	新製品スキャントロニクスCL4-SXRラベル自動貼付機入出荷・在庫管理ソリューションパッケージなど
積水樹脂（株）	ウォークスルーゲート他、透明電波吸収パネル製品
ゼネラル（株）	ネジ型RFタグ及び各種RFタグのご紹介、RFIDシステムの実演。
（株）デンソーウェーブ	製造現場の生産性を向上するRFID等のソリューションをご紹介致します。
TOPPAN（株）	製造・物流・医療などの現場を効率化するソリューションを紹介
ニッタ（株）	ユニフォーム向けリネンタグ、金属対応タグ
（株）ハヤト・インフォメーション／HASTEM（株）／（株）大和コンピューター／（株）LIFE	河上から河下まで、生産から店舗・消費者までつなぐRFIDソリューション
（株）ビジコム	物流・製造・小売業界の入力のDXを極める業務用デバイス・モバイル端末
（株）マーストーケンソリューション	製造・物流DXのRFIDやAI検査・フォークリフト安全対策など多数展示
（株）リコー	シリコンライナーレスラベル，フェノールフリー製品
（株）イー・ビー・エル	ポスター展示コーナー
（株）テララコード研究所	ポスター展示コーナー
（株）ムクイル	ポスター展示コーナー
大阪市経済戦略局	出版・関連団体
GS1 Japan（（一財）流通システム開発センター）	出版・関連団体
日本工業出版（株）	出版・関連団体
（一社）日本自動認識システム協会	出版・関連団体
（有）流通情報ラベル社	出版・関連団体

BT Business Technology
Spice 自動認識セミナー

2月19日（木）

チュートリアルセッション

2024年市場調査報告と自動認識技術の最新動向

（一社）日本自動認識システム協会　市場統計委員長　湯川 知明 氏
アイニックス（株）　代表取締役　会長　平本 純也 氏

国際標準識別コード

GS1標準とEPCで実現する“つながるサプライチェーン”

GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）ソリューション第1部RFID・デジタル化推進グループ　グループ長　前川 ふみ 氏

医療分野における自動認識システムの活用

医療用医薬品における医療安全の実現およびトレーサビリティを目指して

市立大津市民病院
医薬品情報管理室長　医療情報システム室兼務　山中 理 氏

安全と効率のためのバーコード表示　―世界動向と医療現場での活用―

GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）
ソリューション第2部　部長　植村 康一 氏

業務改善事例に学ぶRFIDの活用①

金属対応RFIDで実現する軽仮設機材レンタル業のDX成功事例

（株）アクトワンヤマイチ
執行役員（新規事業開発部・機材管理部・商品部 管掌）　岡田 正志 氏
（株）DNPデジタルソリューションズ
関西システム本部システム開発第1部　システムマネジメント課　課長
藤田 陽介　氏

2月20日（金）

広がる自動認識技術の利用シーン

「RFID×アパレル」新体験開発、循環インフラ「P-FACTS」社会実装

（株）村田製作所　事業インキュベーションセンター　RFID事業推進部
事業・技術企画課　シニアマネージャー　福原 将彦 氏

JICSAP「利用シーンに応じた『顔認証』導入ガイドライン」の最新検討状況について

JR東日本メカトロニクス（株）
先端技術開発本部　システム開発部担当部長 兼 モバイルシステム課課長 兼 ICT開発課　課長　初本 勲 氏
ソニー（株）
エンタープライズソリューション事業部　開発部2課　統括課長
中津留 勉 氏

業務改善事例に学ぶRFIDの活用②

医療材料管理におけるRFID技術活用

（株）エフエスユニマネジメント
企画本部　事業推進部　部長　髙橋 直角　氏
（株）デンソーウェーブ
グローバル販売推進部　営業企画室　室長　真野 靖章　氏

調剤包装単位への変動情報を含むGS1バーコードのラベラー

TOPPANインフォメディア（株）　SEチーム　課長　岡 秀則 氏

出展社プレゼンテーション

耐熱金属対応タグの使い方（know-how）

（株）サイレンスネット

ハンディターミナルとRFIDによる新しい物品管理システム

（株）ケーウェイズ

新生エイリアンテクノロジーHiggs9, Higgs10製品

（株）RFIDアライアンス

製造・物流・医療などの現場を効率化するソリューションを紹介

TOPPAN（株）

デンソーのIoTデータ基盤と現場業務改善ソリューションで製造DX!

（株）デンソーウェーブ

作成者と読取者を認証可能なQRツイン２次元シンボルの紹介

（株）テララコード研究所

AUTO-ID トップランナーに聞く



大日本印刷株式会社

中野 茂 様

**2001年にEPCグローバルに
日本企業で初めて加入して以来、
RFIDの普及と標準化に貢献している中野さん。
JAISAのRFID部会副グループ長としても
永くご尽力いただいています。**

入社の動機と入社後のお仕事は？

中野 私は精密工学科出身で、LSIのステッパ*の基礎技術をやっていました。

就職を考えた時、インフラ系の仕事をしたいと思っていました。インフラというとライフラインの電気・ガスなどがうかびますが、印刷もインフラですよね。書籍やパンフレットなどの印刷物は、情報を伝える重要な役割を担っています。それと研究室の先輩が大日本印刷にいたことも影響を受けた要因です。

入社は1989年です。
入社後、2003年まで商品パッケージの企画部署におり、私はおもにヨーグルトのカップや漂白剤のボトルなど、プラスチック成型品を担当していました。食品のパッケージデザインも多く、ポテトチップスやふりかけな、コンペに参加していました。

＊LSI（大規模集積回路）のステッパ（正式名称：縮小投影型露光装置、通称：ステッパ/スキャナ）は、半導体ウェーハ上にフォトマスクの回路パターンを焼き付ける、現代の半導体製造で精密で重要な装置

広告代理店やデザイン会社がコンペの相手ですか？

中野 そうなります。ウチは印刷が欲しいからコンペに出るわけです。

RFIDに携わるきっかけは、どのような経緯で？

中野 私がインターネットでMIT（マサチューセッツ工科大学）のサイトだったと思いますが、EPCグローバルの記事を見つけて、本部長に報告したんですね。
そして1週間くらい経った頃＜中野、お前行ってこい＞って。それで2001年にEPCグローバルに加入することになりました。日本の会社で加入したのは当社がいちばん初めでした。四半期ごとに全体の会議があって、そのためにボストンに行くんですが、やはりパイオニア精神っていうか、リスクを負って入ってきた最初の日本企業っていうことですごく評価してくれました。
当時、P＆Gとウォルマートが中心的存在*でした。
＜世の中こうなってんだ＞と思って。いろいろと勉強になりました。

＊EPCグローバル、P&Gとウォルマートの三者は、2000年代初頭のRFIDのサプライチェーン導入において、技術標準化の推進と、その最大級の検証・利用パートナーという関係。
ウォルマートが上位サプライヤーにRFID導入を義務付けた際、P&Gが先陣を切ってRFIDで物流・在庫管理の効率化を実証した。

当時、御社にRFIDの部署はありましたか。

中野 ICタグ推進センターがありました。
食品や日配、雑貨のパッケージには必ずバーコードが付いていますよね。当社が関わるプロダクトでバーコードが入っているものはとても多いんです。
バーコードがRFIDに替わるなら今から手を付けないと駄目だと考えて、やらせてほしいと言ったんです。
ほかにもいくつかの部署から手が挙がったようで、1999年に立ち上がりました。

商品パッケージのデザインと兼務ですね。

中野 当時はみんながのびのびしてましたよね。
こんなことやりたいって言うと、RFIDじゃなくてもね、足を引っ張られるようなことはなかったです。会社も＜やってみろ＞と言ってくれました。仲間は自分で見つけてこなきゃいけない部分もあるんだけど。

私が入った時に＜抱負を言え＞と言われて、＜先輩のいない仕事をしたい＞って言った覚えがあります。（笑）

言っちゃいましたね。（笑）

中野 その通りになったかどうかは別にして、新しい仕事を作り出していかなきゃいけないっていう気持ちを持っていましたし、それは今でも実践しています。
そのような会社の風土は現在も変わってないだろうと思います。

EPCグローバルにはその後、日本企業も加入していますね。

中野 当社が加入してから徐々に増えていきました。会議で同席する機会が増え、標準化の推進などそれぞれの業務を進めるうえで、会社は別でも仲間意識が生まれて、プライベートで現在でも付き合っている方々がいます。私の知らない会合に連れて行ってもらったり、違う分科会の人を紹介したり、いろいろな経験をすることができました。

また、2000年代はじめの経産省のプロジェクトでご一緒した方々とは、同じ釜の飯を食ったという意識があって、以来定期的に会うようになりました。

その頃、RFIDの実証実験ではどのようなことをやられましたか？

中野 基礎的な部分では、日本でタグを読んでサンフランシスコにあるサーバーに問い合わせて、データが返ってくるまで何秒かかるとか。コンマ1秒くらいで返ってるんですが、当時はみんな驚いて。
夢を抱いてやっていたんでしょうね。（笑）

JAISAでも永年RFID部会を牽引していただいていますが、中野さんの外交的なところは幼少期からでしょうか。

中野 外交的かどうか分かりませんが、初対面の人と会ったりするのは苦にならないです。
ただ、父親は転勤族だったんです。小さい頃から日本全国、おもに北まわりで、大体4年に1回転勤があって、行った先でムッツリしていても友達できないですよね。その時のマインドが残っているのか、海外の会合に出てもまったく苦にならないっていうところはあります。

知らない場所に行く時にはいろいろと準備もされるでしょう。引き出しを持っていないと不安とか。

中野 あまり意識はしてないですが、EPCグローバルのときは、とにかく教えてほしいというスタンスで行きました。そうするとアメリカ人もヨーロッパ人も、私が答えられる範囲でよかったら教えてあげますよと。あの時はグローバルにRFIDというマーケットを立ち上げようということで、みんなのベクトルが合っていたので、これに乗せてもらって行っちゃうしかないな、（笑）と思っていました。

海外と日本では仕事の向き合い方が違うとか、感じましたか。

中野 競争という考え方が違うんでしょうか。彼等にとっては日本がちょっと厳密に競争しすぎだと思って



いるかも知れません。

会合に行った際にたまたま商談を横から見ていた時、ある企業の副社長でしたが、包材メーカー2社を前にして、＜来年どれくらい欲しい？＞みたいな話をしてました。見積もりなんか取ってない。相手の言い値を聞いて＜その位か、わかった。考えとく。＞みたいな。

商売の仕方が大らかなんですかね。

中野　大らかというか、余裕があるんでしょうね。だからそこでガチガチに値段を落とさなくても、自分と商売してくれると思っているんでしょうか、無駄な競争をしないというか。だから、同業の会社が少ないですね。

なるほど。国内ではトップシェアの商品名は浸透していても、類似商品がたくさんありますね。ところで、中野さんがRFIDに携わって25年位経ちますが、国内のRFID普及は順調でしたか。

中野　アメリカが早かったのはウォルマートの存在が大きかったです。同社の場合RFID導入前は万引き額が年間2兆円なんて言われていました。市場が寡占状態でしたから、ボリュームも大きいし、動き出しやすい状況だったですね。日本では＜RFタグを付けてくれ＞という小売業さんの声がまとまらず、大きくならなかったという違いがありました。

現在アパレル分野では十数社がRFタグを付けていますし、本でも付きはじめています。
理想的というか、当時私が思っていたのは、日配品、雑貨、食品までRFタグが付くことで、正確で早く、みんなが楽しく働けるようになるなと。そういう意味ではまだまだだな、と感じています。

すると市場はこれからもっと伸びていくと？

中野　そうですね。2000年代はじめ頃と今とでは、社会的バックグラウンドが違っています。いまは働き手がいないので、テクノロジーでフォローして行かないと事業が継続できなくなる、という声を多く聞きます。

また最近、話題になっているフィジカルAIですね。あのフィジカル部分の、ものを識別する道具としてRFIDが使えますとか。

用途も広がりますね。

中野　当社では冷蔵庫にリーダーを入れるというパテントを出したことがあって、もう切れていますけど。また電子レンジに食品を入れると加熱時間がサーバーから取れます、みたいな提案は多くあります。

サプライチェーンの頭からお尻まで、ひとつのデバイスで何かしらの便益を受けるという、ライフスタイルが変わる世界をつくり出したいですね。

社内にはRFIDに関わる優秀な人たちが育ってくれていますし、多くの部門があります。RFIDを始めた頃の理想は、全然諦めていません。

ありがとうございました。



流通センター見学会（25年2月）。最新の技術やシステムを見学。



PROFILE

中野 茂　なかの　しげる

大日本印刷株式会社

入社：1989年
情報イノベーション事業部ＰＦサービスセンターセキュアサービスプラットフォーム本部サービス開発第２部第２グループ

趣味　アウトドア、写真
モットー　全体最適

自動認識ユーザー現場見学会

未来のAUTO-IDプロジェクトレポート

必要な時、必要な場所で、必要な機材を

2026年2月19日（木）10:00～12:00まで、建設用軽仮設機材レンタル業の（株）アクトワンヤマイチ関西営業所（大正機材センター）で、現場見学会を実施し、17名/社様が参加しました。

（株）アクトワンヤマイチ様では、必要な時、必要な場所で、必要な機材をいつでも提供できるよう、正確な数量と安全な商品の品質管理に努めています。同社のおもな業務は、機材の在庫管理、出庫、入庫、整備（メンテナンス）に大別されます。

従来、レンタル機材の出庫・入庫では、お客様の来社時に機材の積込みや返却の詳細を口頭で確認の上、関連する紙伝票を発行していましたが、内容の確認に時間を要し、車両待機時間が長期化するほか、手作業と目視確認のため、情報の正確さにも課題がありました。

取扱機材の出入庫管理にRFID利用のシステムを導入

アクトワンヤマイチ様では業務上、４項目を課題としていました。

- **伝票の種類・枚数が多く、帳票処理が煩雑**
- **貸出状況の確認に時間を要する**
- **商品状態や在庫数量の不一致が受注業務に影響する**
- **車両待機時間の増大によるお客様への負担**

上記の課題解決に向けて、業務効率化・省力化および品質・在庫管理の高度化を図るため、タブレット＆RFID利用の出入庫管理システム＜アシスト＞を導入して運用を開始しています。

■ ＜アシスト＞で使用する機器

①RFタグ（金属対応タイプ）
金属製商品への干渉を抑え、野外や過酷な環境下でも安定した読み取りを実現。

②業務処理端末（タブレット／スマートフォン）
カメラ機能による検収写真の即時保存と、直感的な操作による作業効率を両立。

③RFIDリーダライタ（UHF帯）
離れた場所からの一括読み取りに対応、検収作業の劇的なスピードアップを可能に。

④モバイルプリンタ（携帯型ラベルプリンタ）
出庫・入庫作業の結果を現場で即座にアウトプット。目視でも登録内容の最終確認を行うことで、入力ミスや確認漏れを徹底排除します。



大正機材センター会議室　見学前のブリーフィングと見学後の質疑応答

作業時間を約20%削減。1日の出入庫台数1.5倍

アクトワンヤマイチ様では＜アシスト＞導入により、目視による商品確認や紙伝票への手書き作業を撤廃。従来の業務フローを大きく変えることなく、システムに合わせた作業手順や運用を徹底し、作業時間の短縮とミス低減に大きな成果を上げることができました。また、ペーパーレス化による環境負荷低減（SDGsへの取組）や経費削減に加え、トラックの待機時間短縮にも成功しています。

見学会メニュー

2月19日10:00～12:00



機材に装着したRF金属対応タグ

▼ **見学会概要説明**
- アクトワンヤマイチと導入システムについて
- JAISAについて

▼ **場内見学**
- 機材保管状況
- 出入庫状況
- 洗浄作業（超高圧洗浄機）

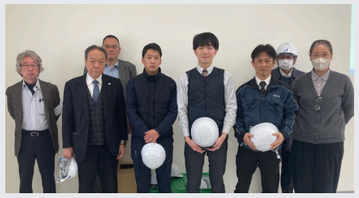
▼ **アシストシステムデモンストレーション**
- 出庫準備～出庫

▼ **質疑・応答**

見学後に多数の質問

センター場内を見学後、質疑応答が行われ多くの質問が寄せられました。参加者へのアンケートでは、具体的なRFIDの運用を見学できたこと、改善点の具体的成果など多くの事柄を吸収できた、との意見をいただくことができ、充実した見学会となりました。

見学会に参加したみなさま　3グループに分かれて見学







画像認識　生体認証

第28回 自動認識システム大賞

作品募集

自動認識システム大賞は、先進的かつ導入効果が極めて顕著な自動認識技術やシステムを表彰するもので、自動認識システム大賞、優秀賞ほか、各賞に賞状･副賞が授与されます。

大　賞	1作品（賞状、賞金30万円）	産経新聞社賞	1作品（賞状、賞金）
優秀賞	2作品（賞状、賞金10万円）	特別賞※	1作品（賞状、賞金）

※特別賞は、新規性、導入効果、社会的価値、実績等の審査項目において、秀でたものがあれば対象となります。

RFID　バーコード

自動認識システム大賞 応募要項

■募集対象

自動認識に関する技術やシステムで、国内で実用されている、または実用の目途が立っているもの。海外で構築されたシステムは国内の導入実績があるもの。日本国内の企業、団体、個人でご応募ください。

■応募方法

以下の項目について指定の申請書に記述して、当協会にe-mailにてお送りください。（ファイルサイズが大きい場合は、事前にご連絡ください）

1. **技術分野**：バーコード、RFID、画像認識、生体認証など
2. **申請テーマ**：簡潔で分かりやすい名称を30文字以内で記述
3. **申請会社名**：会社・団体、担当者、所在地、連絡先など
4. **共同申請会社**：共同申請会社・団体がある場合、応募1作品につき、最大3社・団体まで
5. **ユーザー名**：会社・団体、担当者、連絡先など
   公表できない場合は業界を明らかにすること
6. **システム概要**：技術やシステムの概要を300文字以内で記述
7. **申請内容詳細**：**新規性**／技術、市場、企画などの見地で記述
   導入効果／経済面、品質面、利便性を記述
   社会的価値／公共性、環境、社会貢献度を記述
   実績／導入実績、導入予定等を記述
8. **機器、システム構成**：写真や動画、図表を使って記述
9. **補足資料**：優位性を説明する資料があれば同封

■募集条件

受賞者は、当協会が設定するセミナーなどで、プレゼンテーションを行っていただきます。また、当協会が出版、寄稿する際に、受賞作品の掲載協力をお願いします。

■日程

●**募集開始**：**2026年3月1日（日）**
●**締め切り**：**2026年5月31日（日）**
●**審　　査**：予選審査及び最終審査を行います。
予選審査を通過した申請者は、最終審査でプレゼンテーションを行っていただきます。
（但し、交通費は自己負担でお願いします）
●**結果発表**：2026年7月31日（金）
当協会Webサイトほかで公表します。
●**表 彰 式**：**2026年9月9日（水）** ＊第28回自動認識総合展会場にて開催予定

■お問い合せ

(一社) 日本自動認識システム協会 事務局
system-award@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

JAISA Japan Automatic Identification Systems Association

画像認識　生体認証

2026年度 自動認識技術者 資格認定講習・試験

多くの産業分野や私たちの生活で利用されている「自動認識技術」に関する知識を、提供する人と利用する人が、正しく学び習得するための技術者認定試験です。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験	講習：オンライン形式（再視聴あり）	試験：集合形式（全国複数会場）
RFID専門技術者資格認定資格講習・試験	講習：集合 or オンライン形式	試験：集合形式（東京会場）

RFID　バーコード

自動認識技術者資格認定講習・試験概要

■目的

自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに、的確・迅速な対処ができるよう、エンジニアリング業務、システム業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者を育成・拡大するために、一般社団法人日本自動認識システム協会が講習・試験を実施し、合格者の認定・登録を行うものです。

■資格等級と対象者

●自動認識基本技術者資格
自動認識技術の基本となる「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」、「生体認証」、「標準化」の4科目の基本となる知識を習得します。
対象は、自動認識システムに携わる企業の新入社員・中堅社員、学生、一般社会人などです。

●自動認識専門技術者資格
「バーコード・二次元シンボル」、「ＲＦＩＤ」の各科目の専門的な知識を習得します。
対象は、「自動認識基本技術者資格」を取得されており、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

■資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。
また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。
＊希望により非公表も有。



登録証見本

■講習・試験日程

●第56回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

	講習（オンライン）		講習再視聴（オンデマンド配信）	試験（会場集合）
日程	7月2日（木）10:30～16:30	7月3日（金）10:30～16:30	7月4日（土）～10日（金）24時間	7月11日（土）13:30～14:50
受講科目	標準化	バーコード	全4科目	東京・大阪・仙台 4科目受験
	RFID	バイオメトリクス		

●第57回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

	講習（オンライン）		講習再視聴（オンデマンド配信）	試験（会場集合）
日程	11月5日（木）10:30～16:30	11月6日（金）10:30～16:30	11月7日（土）～13日（金）24時間	11月14日（土）13:30～14:50
受講科目	標準化	バーコード	全4科目	東京・名古屋・福岡 4科目受験
	RFID	バイオメトリクス		

＊自動認識基本技術者資格認定講習・試験では、講習から試験までの復習期間を延長して講習を再視聴できる日程を設けています。

●第21回RFID専門技術者資格認定講習・試験

	講習：RFID（JAISA会議室・オンライン）	試験（会場集合）
日程	2027年 2月4日（木）～6日（土）9:00～16:00	2027年2月13日（土）13:00～14:30 東京

＊2026年度は、バーコード専門技術者資格認定講習・試験の実施はありません。

■受講・受験料

●自動認識基本技術者資格認定講習・試験

受験回数	一般	会員割引	学生割引料金	受験料（試験のみ）
1回目受験（テキスト有）	40,000円（税込価格 44,000円）	30,000円（税込価格 33,000円）	15,000円（税込価格 16,500円）毎回	10,000円（税込価格 11,000円）毎回
1回目受験（テキスト無）	32,000円（税込価格 35,200円）	24,000円（税込価格 26,400円）		
2回目受験（テキスト無）	15,000円（税込価格 16,500円）	15,000円（税込価格 16,500円）		

●RFID専門技術者資格認定講習・試験

受験回数	一般	会員割引	受験料（試験のみ）
毎回	50,000円（税込価格 55,000円）	40,000円（税込価格 44,000円）	20,000円（税込価格 22,000円）

■お問い合せ

(一社) 日本自動認識システム協会 事務局
Phone 03-5825-6651　license@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp

JAISA Japan Automatic Identification Systems Association



自動認識の基礎知識セミナー概要

講　座	バーコード、RFID、バイオメトリクス、標準化
対 象 者	どなたでもご参加頂けます。特に新入社員・新任担当者の方に最適です。
U R L	https://www.jaisa.or.jp/seminar.php　(Webサイト)
申　込	kiso-seminar@jaisa.or.jp　(e-mail)

【1】自動認識の基礎知識セミナー（集合形式 または オンライン受講）

開 催 日	2026年 ①4月22日（水）②6月19日（金）③8月27日（木）④10月20日（火）⑤12月11日（金）⑥2027年2月18日（木）	
開催時間	10:00～16:45 (昼食、休憩含む)	
開催場所	(一社) 日本自動認識システム協会　会議室	
講義内容	バーコード、RFID、バイオメトリクスおよび標準化の基礎的な知識、活用方法・応用事例ほか	
募集人員	40名 (先着順)	
受講費用	会員企業 10,000円/人 (税込価格 11,000円)	非会員企業 20,000円/人 (税込価格 22,000円)

【2】講師派遣による自動認識の基礎知識セミナー（集合形式 または オンライン受講）

開 催 日	ご要望により実施		
開催場所	ご指定場所		
講義内容	バーコード、RFID、バイオメトリクスの各科目を各１講座として、1回の派遣につき 2講座以上にて対応します。講座の組合せはご要望に従って実施します。 ※RFIDの実演に関しては免許の関係により別途ご相談		
実施費用 (1講座) ※2講座以上で お申し込みください	受講人数	会員企業	非会員企業
	20名未満	30,000円 (税込価格 33,000円)	60,000円 (税込価格 66,000円)
	20名以上	40,000円 (税込価格 44,000円)	80,000円 (税込価格 88,000円)
	50名以上	60,000円 (税込価格 66,000円)	120,000円 (税込価格 132,000円)
交通費等	講師交通費・宿泊費・日当等は講師人数分を別途ご負担願います。(100km圏内は除く)		
そ の 他	セミナー会場の確保とプロジェクターの準備をお願いします。		

お問い合せ　(一社) 日本自動認識システム 協会基礎知識セミナー事務局
Phone　03-5825-6651　　kiso-seminar@jaisa.or.jp
www.jaisa.or.jp
JAISA Japan Automatic Identification Systems Association

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO
第28回 自動認識総合展

2026.9.9 WED - 11 FRI　10:00 - 17:00　東京ビッグサイト 南3ホール

ゾーン展示　画像認識×AIゾーン



主　催：一般社団法人日本自動認識システム協会　JAISA Japan Automatic Identification Systems Association

公式サイトはこちらから

併催事業：BT Business Technology Spice 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com

展示会事務局　(株)シー・エヌ・ティ　〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3-4F　TEL. 03-5297-8855　FAX. 03-5294-0909　info@autoid-expo.com